



所属チーム / SCRATCH
出身地 / 北海道 年齢 / 21才
持ち点 / 4.5

16 | **碓井 琴音**

USUI Kotone

同世代チームだからこそ生まれた成長

碓井 琴音(4.5)

<心のどこかにあった“中途半端さ”>

健常のランニングバスケットボール出身の碓井琴音は、小学1年からミニバスケットボールを始め、中学ではバスケットボール部に所属していた。しかし、中学3年の時に骨肉腫を発症。高校時代はバスケ部のマネージャーを務めていた。

車いすバスケットボールを始めたのは、高校3年の夏だった。「骨肉腫が見つかったのが、中学3年の最後の引退試合の前で、中途半端なままに終わってしまったという気持ちがあったんです」それが車いすバスケットボールを始める最大の要因だった。

実は、もともと車いすバスケットボールの存在は知っていた。地元では毎年、ミニバスからシニア世代まで、さまざまなカテゴリーの試合が開かれる大会が開催されている。その大会には車いすバスケットボールの部もあり、小学3年から大会に出場していた碓井にとって、車いすバスケットボールは“見慣れた”スポーツだった。

バスケットボール経験者ということもあり、その高いセンスは、すぐに車いすバスケットボール関係者の目に留まったのだろう。車いすバスケットボールを始めて間もなく、碓井は若手有望株の一人として、代表候補の合宿にも呼ばれるようになった。今では強化指定選手の一人だ。

しかし、先輩たちに引っ張ってもらう中では、どうしても自主的な言動が少なく、それがプレーにも出てしまい、指摘されることもしばしばだった。一方、U25代表チームでは、同世代ばかりで、自分より年下の10代の選手もいる中、碓井にも自然と自主性が生まれ、プレーでも積極的に自らボールに絡む場面が増えてきている。

<プレーの成長につながった“トーク”>

また、碓井はどちらかというと、ふだんは控えめな性格の持ち主。自ら積極的に前に行ったり、話すようなタイプではない。だが、トレーニングや練習試合などでは碓井の声がよく聞こえてくる。それも彼女の成長の証だ。

「プレーはもちろんですが、特に気持ちでなんとかなる部分は頑張ろうと思っています。でも、最初はまったく声が出せなかったんです。クラブチームでもよく言われていたのは『言わなければ、わからないよ』と言うこと。どうしても視野や動きの範囲が限られる車いすバスケットボールではトークは必須。お互いに声を掛け合わなければ、プレーが成立しません。私は周囲にお尻を叩かれて、徐々に声が出るようになってきました。今ではだいたいコートの中でトークしたり、ベンチでも声を出したりできるようになりました」

世界選手権でのチームの目標は、過去最高の4位以内。その目標達成のために、自分ができる最大限のことをして、チームの勝利に貢献することが碓井自身の目標だ。

将来は日本を代表するハイポインターになりたいと考えている碓井。今大会はその大事な“第一歩”となる。